日本生活科・総合的学習教育学会 平成26年度第23回全国大会 埼玉大会 かかわりを深め、新しい社会を創造する学び(その1)

~学会発祥の地から新たな学びの提案~

埼玉大会会長 若手三喜雄(共栄大学)

日本生活科教育学会は、平成4年12月5日(土)、6日(日)埼玉大学教育学部附属小学校で産声をあげました。その後、大阪、新潟、福岡、秋田、愛知、東京、栃木、佐賀と続きました。第9回佐賀大会において、日本生活科・総合的学習教育学会と名称が変わりました。さらに、神奈川、茨城、山口、高知、高知、产業、山形、鹿児島、京都と続き、第20回の節目を岐阜で迎え、徳島、兵庫と続いて、平成26年6月14日(土)、15日(日)、22年ぶりに学会発祥の地、埼玉で全国大会を開催させていただくことになりました。

平成4年、「21世紀の学校と生活科の可能性」を大会テーマとして開催し、21世紀の学校はどのような学校になるのだろうか。その時に生活科は、どのような役割を果たすのだろうか。全国各地からお集まりいただいた800名にも及ぶ小学校の先生方や大学等研究者の先生方、行政の先生方などで、熱心に協議を深めていた記憶があります。

21世紀に入り、すでに10数年が過ぎた 今、学校はまさに大きく変わろうとしていま す。10年一昔とは言えないほどの変化の激 しい社会にあって、たくさんの知識を身に付 けるだけでは、普通に生きていくことすら難 しい時代になっていると言えます。つまり、 知識の量で量る学力を身に付けさせることか ら、学び方やものの見方・考え方等も含めた 学びの質そのものが問われている時代である と言うことができます。

その後の中央教育審議会答申や学習指導要領の変遷等を見ても、「生きる力」を育むことの大切さが強調されています。端的に言うと「学びの量から質への転換」が、より一層求められていると考えます。

- ・自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、 主体的に判断し、行動し、よりよく問題を 解決する資質や能力
- ・自らを律しつつ、他人とともに協調し、他 人を思いやる心や感動する心などの豊かな 人間性
- ・たくましく生きるための健康や体力など 上記の3つの前に、基礎・基本を確実に身に 付けとの文言が加えられています。これらの 「生きる力」を確実に身に付けさせるという ことは、3つの力に直結するところの生活科 や総合的学習の充実を図ることが、より一層 求められていると考えます。

「21世紀の教育と生活科の可能性」をテーマに協議された平成4年12月から、20数年が過ぎた今、生活科の様々な実践が、21世紀の教育の在り方に、少なからず影響を与えてきていることは実感されています。子どもたちを中心においた教育の可能性の追究は、まだまだ20年を過ぎたところです。

生活科と総合的学習を含めた子どもを中心とした教育が、21世紀の主役として活躍する子どもたちを育てていくものと実感しています。そのことは、今回のテーマでもある「新しい社会を創造する学び」として期待しているところでもあります。

これからの新しい社会の創造には、子どもたちの力が不可欠です。他者と積極的にかかわり、協同して課題を解決する力をより一層高め、社会とかかわりながら、新しい社会を創造してくれるものと願っています。ますますグローバル化する社会にあって、「新しい社会の創造」は未来を担う子どもたちに、期待されている力です。

平成26年6月14日(土)、15日(日)埼玉からの新たな学びの提案にご期待ください。